

令和8年度 全国学力・学習状況調査結果の概要

木島平村教育委員会

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。(文部科学省)

2 調査実施日 4月23日(木)

3 調査対象 小学6年生42名、中学3年生34名

4 調査内容

(1) 教科に対する調査

○小学6年生：国語・算数 ○中学3年生：国語・数学・英語

(2) 質問紙調査

○児童生徒に対する質問紙調査 ○学校に対する質問紙調査

5 「教科に関する調査」の結果概要と改善の方向

(1) 小学6年生

① 国語

「暑い夏を快適に過ごすための衣服の工夫」についての文章を読み、自分の考えを書くことができています。また、筋道の通った文章になるように、文章全体の構成や展開を考えることはできていますが、本文を引用したり条件に従って考えたりすることに課題が見られました。

話すこと、聞くことの領域では、相手に伝わるように理由や事例を挙げながら話の構成を考えることが優れていますが、資料を活用して表現を工夫する点において課題が見られました。今後、自分の考えと文章に書かれたことを根拠を持って区別したり、条件に合わせて考えたりする学びの充実を図っていくことが求められます。

② 算数

図形についての基礎的・基本的な知識・技能は、一定の理解度を示していますが、立方体の体積の計算による求め方や体積の意味についての理解が低い傾向にあります。また、データ活用では、棒グラフの特徴や用い方の理解や読み取りを理解していますが、二次元の表から、一定の条件に見合う数値を読み取るなどの発展的な設問に対しての正答率が低い傾向が見られました。

設問の多くが、一定の条件にそって変わる数量関係を式や言葉を用いて求めたり、数量の増減を判断する理由を言葉や数を用いて記述することが求められていることから、これからの学習では、数量の変化の意味や表し方の理解を、場面や目的に応じて比較したり、自身の考えを根拠を示しながら説明したりするなどの学びが重要であると考えられます。

(2) 中学3年生

① 国語

語句や文法に関する基本的な知識は比較的定着していますが、読解問題では、本文の内容を正確に読み取る力が不足している傾向にあります。特に、複数の情報を整理して理解

解することについての正答率が低い傾向が見られました。擬音語（擬声語）・擬態語に関する設問では、言葉がどのような様子を表しているのかを具体的に書くことはできていますが、その効果について本文中の言葉を使って、自分の考えと文章に書かれたことを区別し、条件に合わせて考えるなどの発展的な課題に取り組む思考力に課題が見られました。

今後、思考・判断・表現する力を高めるために、根拠を示しながら自分の考えを述べる学びの充実を図り、グループ内活動やディスカッションを通じて、論理的に思考を深める機会を拡充する実践的な学習を推進することが求められます。

② 数 学

データの活用領域では、「動画の時間とデータ量の関係を表すグラフから点Cの座標を読み取る」設問は理解ができていますが、「データ量が100MBになるときに、動画の時間はおよそ何秒になるかを求める方法を、関数グラフのXやYの値を使って説明する」といった発展的な設問では、数学的に表現したいことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明するというところに課題が見られました。

図形領域の角の大きさを式で求める設問では、考察の対象となる角を的確に捉えることができています。一方、三角形の合同を基に証明する設問では、筋道を立てて考えて証明することに課題も見られました。

今後は、複数のデータ分布を比較するなどの活動を通して、判断の根拠を数学的な表現を用いて説明できるようにすることが引き続き必要と考えられます。

③ 英 語

IRTバンド分布からは、5及び3に該当する生徒の割合が全国数値よりも多く、「日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を聞きとることができる」、「短い文章を読み、概要を捉えることができる」などにおいて優れています。また、「日常的な話題に対して、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができる」点においても力を付けています。

一方、「自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができる」「音声や語彙、表現や文法、言語の働きなどの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションで活用できる技能を身につける」において、更なる努力の必要が見られました。

今後は、聞く・問うことを基盤とする対話的コミュニケーションを大切にしながら、設問の文章を読み取り、自分の考えと理由を交流し合う学びが引き続き重要と考えます。

6 「児童生徒の質問紙調査」の結果概要

質問紙調査は、①学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の取り組み状況

②ICTを活用した学習状況

③教科に関する意識や学習活動の状況

④学校外での学習や生活の状況

⑤児童生徒の挑戦心や好奇心等

以上5つの観点から調査が行われました。

◇小中学校共通（自己肯定感等にかかわる設問）回答割合

・自分にはよいところがあると思う。	【小…78.1 中…73.5】
・人が困っているときは、進んで助けますか。	【小…92.7 中…94.1】
・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	【小…87.8 中…88.2】
・人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	【小…95.1 中…94.1】
・学校に行くのが楽しいですか。	【小…73.1 中…94.1】

・友達関係に満足していますか。	【小…92.7 中…100】
・自分と違う意見について考えるのが楽しいと思いますか。	【小…73.2 中…79.4】
・普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがどのくらいありますか。	【小…92.7 中…94.1】
・先生はあなたのよいところを認めてくれますか。	【小…90.2 中…97.0】
・困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつも相談できますか。	【小…58.5 中…82.3】
・地域や社会をよくするために何をすべきか考えますか。	【小…75.6 中…85.3】
・学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができていますか。	【小…80.5 中…85.3】
・授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互い協力しながら課題に取り組んでいますか。	【小…85.3 中…94.1】
・総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。	【小…53.6 中…82.3】
・道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。	【小…70.7 中…94.1】

◇小中学校共通（ＩＣＴ等にかかわる設問）

・あなたはＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができると思いますか。	【小…65.9 中…88.3】
・自分がＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を使って学校での活動でプレゼンテーション（発表スライド）を作成することができると思いますか。	【小…68.3 中…88.2】
・あなたはインターネットを使って情報を収集する（検索、調べる）ことができると思いますか。	【小…75.6 中…88.2】

7 今後の取組

全国学力・学習状況調査は、年度ごとに出题内容が異なるため、各教科の正答率を経年で単純に比較することは難しい状況にあります。

今回の調査では、国語において、小・中学校ともに、自分の考えと文章に書かれている内容を区別し、条件に応じて記述する問題が出题されました。

算数・数学では、大問形式の中で複数の関連する設問に取り組む構成となり、小学校第6学年では、参加人数を二次元の表を用いて確認する問題、中学校第3学年では、学級紹介動画のデータ量や再生時間などについて、関数やグラフを用いて説明する問題が見られました。

また、英語では、インターネットの利用に関する文章を読み、自分の考えとその理由を記述する問題が出题されました。

このように、各教科を通して、自分の考えを根拠とともに表現する力を問う発展的な問題が多く出题されています。

こうした傾向を踏まえ、授業においては、さまざまな情報を適切に活用しながら、児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」の一層の充実を図ることが求められます。また、学習状況調査の結果からは、児童生徒の学習意欲や学級への所属感が、学力の向上に関わっていることが示唆されています。そのため、児童生徒が学ぶ楽しさや達成感を実感できるような手立てを計画的に取り入れた授業づくりが重要です。あわせて、安心して過ごすことができ、学級への所属感を実感できる環境を整えていくことも大切です。

今後は、授業づくりと学級づくりを一体的に進めながら、児童生徒一人ひとりが主体的に学び、学級全体としても共に成長していくことのできる学びの場をつくっていくことを大切にしていけます。